

学校名		太良町立大浦中学校	
1 前年度 評価結果の概要		・「授業の内容がよくわかる」と回答した生徒は98%であったが、指導法については改善の余地がある。生徒の学習に取り組む姿勢をよりよくするために、学力向上対策コーディネーターや研究主任が中心となって工夫改善していく。 ・学校評価アンケートの結果をみると、生徒は充実した学校生活を送っている。職員が生徒一人一人のことを考えて教育活動に取り組んでいることがよくわかる。諸問題に対して学年・学校でいち早く共通理解を図り、組織的に取り組んでいる結果、明るく、落ち着いた学校づくりにつながっている。しかし、自己肯定感や自己有用感が低い。行事や生徒会活動を通して、自己肯定感や自己有用感を育む手立てをとらなければならない。 ・コロナ禍以降、地域や家庭と一体となった教育実践は難しいものがあった。「郷土愛」を育むためには、PTAと一緒に頑張ってボランティア活動を行うなど、新しいことを実践しなければならない。	
2 学校教育目標		郷土大浦を愛し 強く 郷土大浦を愛し 強く 賢く 美しく生きる生徒の育成 ～大浦中学校が大好きで、故郷大浦に誇りを持つ生徒の育成～	
3 本年度の重点目標		強 く・・・心身ともに健康でたくましい生徒の育成 賢 く・・・自らの課題を持ち、主体的に学ぶ生徒の育成 美しく・・・自他を尊び、思いやりの心を持つ生徒の育成	
4 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
主な担当者			
重点取組			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	○「わかる授業」を目指した指導法の工夫 ○学習内容の習得に向けた、わかりやすい授業の実践	○「授業がよくわかる」とする生徒の割合90%以上とする ○「勉強(学ぶこと)が好き」とする生徒の割合80%以上とする	・立腰、学習姿勢、聞き方指導を徹底する。 ・「問い・対話・振り返り」を意識した授業を行い、授業と評価の一体化を図る。 ・全国、または、県学習状況調査の結果を分析し、指導に生かす。 ・ICT機器を活用した授業を仕組むとともに、家庭学習の指導につなげる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の授業や人権学習集会などのアンケートで、肯定的な回答をした生徒の割合が90%以上 ○友達や級友に対して思いやりのある言葉遣いや言葉かけを行っている生徒が90%を上回る。	・年間35時間の道徳の授業を計画的に行い、道徳的な判断力や実践意欲を養う。 ・ワークシートや振り返りの場面を工夫して、生徒の変容を細やかに観察する。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○職員のいじめ問題への対応や取組に対する、生徒評価、保護者評価で、80%以上	・毎月、生活アンケート「心の扉」を実施して、生徒の実態把握に努め、早期発見と早期対応につなげる。 ・生徒指導主事を中心に情報共有を行い、全職員で組織的な手立てや対応を考えて実践する。 ・生徒会と連携した人権集会や人権標語の作成などを通して、いじめをなくすための取組を行う。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・生徒が活躍する場を設定し、結果にとらわれず「承認」「賞賛」を行う。 ・1年生では職業調べ、2年生では職場体験と高校調べ、3年生では高校説明会等の機会を捉え、将来の進路について考える機会とする。
	○生徒が安心感を持って生活できる学校づくり	○「学校は安心して生活(学習)できる場所である」とする生徒の割合80%以上	・生徒の困り感や不安、悩み等に寄り添って傾聴する資質を高めるための研修を実施する。
●健康・体づくり	㊟「望ましい生活習慣の形成」	○「毎日規則正しい生活ができている(毎日の起床時間と就寝時間がほぼ同じ)」とする生徒の割合80%以上 ○「毎朝、必ず朝食を食べている」とする生徒の割合80%以上	・生徒の意識や関心を高めるために、保健だよりの発行や検診内容に関する資料の掲示を行う。 ・健康診断の事後指導を丁寧に行い、継続して事後処置や健康相談を行う。 ・食育担等の教職員及び養護教諭とで、食に関する授業(研修会)を実施する。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・毎週水曜日を定時退勤日(部活動休養日)として推進する。 ・校務分掌等の業務内容を精選するとともに、複数の教職員で業務を分散して担う。
	○生徒と教職員の余裕ある生活リズムづくり	○「働き方改革」の推進のため、部活動終了後1時間以内の退勤をする	・計画的に業務を遂行するだけではなく、優先順位を決めたり資料を共有したりする等の工夫を行う。
●特別支援教育の充実	○生徒一人ひとりの特性に応じた支援 ○すべての教職員が連携して支援を行う体制づくり	○「学校生活に満足している」と回答する特別支援学級に在籍する生徒の割合80%以上	・定期的に支援委員会(仮称)を設けて情報を共有し、すべての教職員が共通の視点を持って支援できる体制を整える。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
主な担当者			
重点取組			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
○地域に開かれた学校づくり	○地域と学校、保護者が一体となった学校づくり	○「郷土大浦に誇りを持っている」とする生徒の割合が80%以上	・地域支援コーディネーターを中心に、地域の教育資源や人材を生かした体験活動や講演会を実施する。 ・保護者と連携して学校行事を運営する。 ・地域のボランティア活動に積極的に参加する。
○国際交流	○国際交流の促進と英語教育の推進	○「国際交流に関心がある」とする生徒の割合が50%以上 ○全生徒が英検5級以上を取得する。また、英検3級以上の生徒の割合が30%以上を目指す。	・町が主催する台湾との交流事業に積極的に参加する。 ・英語の授業時はもちろん、朝の会や帰りの会等で「イングリッシュ・タイム(仮称)」を設定して、全校一斉に取り組む。
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育			
5 総合評価・次年度への展望		・ ・ ・	